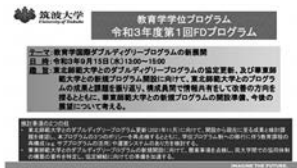


# 活動報告

## 教育学国際ダブルディグリープログラムの新展開

### — 令和3年度第1回教育学学位プログラムFD 報告 —

令和3年11月20日、教育学学位プログラムは、中国・東北師範大学とのダブルディグリープログラムに関する協定を更新した。この協定更新に先立ち、令和3年9月15日（水）に、令和3年度第1回教育学学位プログラムFDをオンラインで開催し、東北師範大学とのダブルディグリープログラムの協定更新、および華東師範大学との新規プログラム開設に向けて、これまでのダブルディグリープログラムの成果と課題を振り返る場を設けた。さらに教員間で情報共有をしながらプログラム改善方策を探ると共に、華東師範大学との新規プログラム開設準備を含め、今後の展望と課題について検討した。

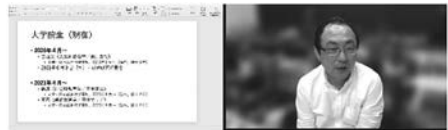


本FDでは、以下の2点を検討事項の柱に据えた。第一に、東北師範大学とのダブルディグリープログラム更新に向けて、開設から現在に至る成果と検討課題を確認し、プログラムの3つのポリシーを再点検するとともに、学位プログラム制への移行に伴う教育課程の再構成（e.g. サブプログラムの活用）や運営のあり方を検討することである。第二に、華東師範大学とのプログラムの新規開設に向けて懸案事項を点検し、両大学間の協同体制構築の要件を特定し、協定締結に向けての準備を加速させることである。



当日は、東北師範大学とのダブルディグリープログラムの現状と課題を探るため、本プログラムの構想から開設に至るまでリーダーシップを発揮していただいた、本学名誉教授の吉田武

男先生にその来歴をお話しいただいた。また、現在も先方との連携に尽力されている唐木清志教授からその後の経過をお話しいただいた。



次に、本プログラムに参加した学生の参加動機や参加経験への見解を共有するため、本学院生の宮本慧さん、東北師範大学院生の聞亦汀さんに対するインタビュー動画を視聴した。その上で、協定更新にあたりプログラムの現状と課題を共有するため、教育基礎科学サブプログラムリーダーの藤田晃之教授より、カリキュラムや学生の履修状況についてご説明いただいた。



最後に、今後の華東師範大学との新規プログラムの開設に向けて浜田博文教授からお話いただき、その可能性を確認した後、参加者全体でディスカッションを行った。



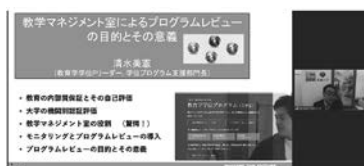
今回のFDでは、参加した学生の見解からダブルディグリープログラムに参加することの意義の大きさを確認できた一方、学生の語学力や両国の大学に在籍しながら研究活動を進める上でのメリット・デメリットも浮き彫りになった。今後は、新たな協定締結に係る事務手続き上の課題を踏まえて、両大学とのプログラムの一層の充実を図っていききたいと考えている。

（文責：教育学学位Pリーダー 清水美憲）

## 大学院教育における質保証の諸相：プログラムレビューに向けて — 令和3年度第2回教育学学位プログラムFD報告 —

令和3年12月15日（水）に、令和3年度第2回教育学学位プログラムFDをオンラインの形で開催した。今回のテーマは、大学院教育における内部質保証である。

教育学学位プログラムを包含する人間総合科学研究群は、令和4年度に本学の教学マネジメント室が実施するプログラムレビューの対象組織となっており、教育の質保証について様々な観点から点検、自己評価を行うことになっている。2020（令和2）年4月から教育学学位プログラムがスタートしコロナ禍で様々な対応が求められる中で、ほぼ2年間が経過しようとしており、徐々に教育の成果と課題が明らかになってきている。そこで、今回のFDでは、プログラムレビューにおける評価項目から見た教育学学位プログラムにおける教学上の現状と課題を共有し、今後の改善方策を考えることとした。



当日は、まず教学マネジメント室の学位プログラム支援部門長を務める清水から、教学マネジメント室によるプログラムレビューの目的とその意義を説明し、本学のプログラムレビューの実施に関する情報共有を図った。

現下の大学全体による取り組みは、国内の高等教育政策の動向が大きな背景となっている。本学では2020（令和2）年4月に新設された教学マネジメント室が、モニタリング、プログラムレビュー、教育組織の施設・改組に伴う学内審査、教学に関するデータ分析（IR）、アンケート調査、FD活動の推進、その他高等教育に関する調査研究を進めている。そして、2020～2023年度までの4年間で学類と大学院

のすべての学位プログラムのプログラムレビューを一巡し、2024年度には大学機関別認証評価を受審することになっている。

このような動きの中で、学位プログラム制への移行を経て、新組織である前期課程の3つのサブプログラムから初めての修了生を送り出す令和3年度が重要な節目となること、そしてプログラムレビューでは、教育の質保証のための目的意識と自主的活動に基づく自己評価が生命線であること等を確認した。

次に、教学マネジメント室の室員である浜田博文教授から「プログラムレビューにおける評価項目と教育学学位プログラムの課題」をテーマに、大学における質保証システムの全体像と共に筑波大学における内部質保証体制について説明していただき、教育学学位プログラムの課題を共有していただいた。この中で、特に、シラバスの作成・改善に係る点検や評価等の具体的項目についても情報提供していただいたことで、全体のディスカッションで、度重なる「評価」の意義やモチベーション等について率直な意見交換がなされた。

①人材養成目的及び3つのポリシーの策定・検証	⑦研究指導及び学位論文の評価（大学院のみ）
②教育課程の体系的性の確保	⑧外国語能力の向上に向けた取組
③総合智教育の充実に向けた取組	⑨入学者選抜及び学生確保
④シラバスの作成・改善	⑩教育体制の確保
⑤成績評価	⑪ファカルティ・ディベロップメント（部局FD）
⑥学修成果の把握・可視化	⑫学生及び企業からの意見聴取

（参考）レビューにおける評価項目

当日は、本部の教学マネジメント室の事務担当者の参加も得て、情報共有を図ることができた。学位プログラムという新組織での教育の充実とその質の向上に向けての点検・自己評価の取組みは、プログラムレビューを契機としつつも、内部質保証のために総力を上げて取りなければならない重要な作業であることを確認する重要な機会になった。

（文責：教育学学位Pリーダー 清水美憲）